

チャレンジ通信

埼玉県議会自由民主党議員団 幹事長

なかやしき慎一



霜月に思う

11月を迎え、猛烈な暑さの続いた今年の夏の記憶も少しずつ薄れ、皆様方におかれましては短い秋を楽しまれていることと存じます。

前回通信の発行から4ヶ月が過ぎましたが、この間私も一つ齢を重ね、県議会議員としての18年目を懐かしくも充実して過ごさせていただいています。

さて、先の衆議院議員選挙ではこの地域からわが党の議員を失うという事態となり、この先の国との連携には新たな手立てを見い出さなければなりません。私としては今まで培ってきた人脈や任を得た立場、そして沿線県議との協力体制のもと、国へのアプローチを強化してまいりますので、皆様方にはご理解の程、よろしくお願いいたします。

11 November
夏の疲れもお残りかと思いますが、皆様ご自身も愛ください。

皆様からのご意見を参考に審議を重ね提案!

埼玉県子ども・若者基本条例

「県子ども・若者基本条例」は、子ども政策に子どもたちの意見が反映される仕組みづくりや、子どもたちから意見を引き出す人材の育成・確保に取り組みすることを掲げています。また「①子どもが有する権利を保障する。②子どもらの最善の利益を優先する。③保護者が子育てに希望を感じ、幸せに過ごすことができる環境を整備する。④社会全体で子育てを支える。」ことを基本理念として県の責務を明記。国や市町村との役割分担を踏まえながら、子育て支援などの施策を総合的、計画的に進めるよう求めるとともに、県民や学校、民間支援団体などに対しては、施策への協力を働きかける内容となっています。

施行は、

令和6年10月18日からです。

※埼玉県子ども・若者基本条例の全文はこちらからご参照ください。

9月定例会報告



一般会計補正予算

【第1号】

約50億1千万円

【第2号】

約37億8千万円

等を議決

県議会9月定例会は9月25日から10月16日までの日程で開催され、一般会計補正予算【第1号】50億1156万2千円、補正予算【第2号】37億7531万7千円、

さらに、私たち自民党議員団が提案した「埼玉県子ども・若者基本条例」等を議決しました。

補正予算【第1号】は、県立特別支援学校に通学する医療的ケア児の通学支援の充実や新生児マススクリーニング検査の対象拡大のための予算措置、公共事業の追加・適正工期の確保など、当面対応すべき事業等が盛り込まれました。補正予算【第2号】は衆議院議員総選挙等に伴う経費で、その財源は全額国庫支出金となります。

新生児マススクリーニング検査に関する実証1億4,138万5千円

概要 (国の実証事業への参加)

さいたま市を除く県内すべての分娩取扱機関で出生した新生児

2疾患を追加した検査の対象を全新生児*に拡大する

- 対象疾患
 - 重症複合免疫不全症(SCID) 出生直後から重篤な感染症を繰り返す疾患
 - 脊髄性筋萎縮症(SMA) 筋力低下、歩行障害等をきたす遺伝子疾患
- 実施機関数 25 → 86機関 (さいたま市を除く県内分娩取扱機関)

検査体制

新生児・保護者 ①同意 → 分娩取扱機関 → ②検体採取(採血) → ③検体送付 → 検査機関 → ④検査結果 → ⑤検査結果説明 → 分娩取扱機関

④検査結果 陽性の場合、精密検査 医療機関への受診勧奨

早期診断・早期治療へ

通学支援の充実による医療的ケア児の保護者の経済的負担の軽減7,153万3千円

概要

医療的ケア児の福祉タクシー等による通学に同乗する看護師費用の支援に要する経費を増額する

事業イメージ

登校時の場合

利用者の自宅 (たん吸引、人工呼吸器) → 福祉タクシーに同乗する看護師費用の支援 → 学校

効果

医療的ケア児の保護者負担の軽減

山西省 趙紅巖 副省長 来県

—今後の友好県省の交流をより一層深めるために—



埼玉県議会日中友好議員連盟副会長として副省長にお渡しした記念品は、我がまち鴻巣、マル武人形さんセレクトの雛人形の原型とも言われている「立雛」です。

10月15日、埼玉県の友好省である中国・山西省の趙紅巖副省長が来県されました。

本県と山西省は、昭和57年(1982年)10月に友好提携し、これまで山西大学への奨学生の派遣や埼玉県立大学における山西医科大学の学生の受入れ、環境保全をテーマとした研究員の相互派遣など様々な交流を行ってきました。

山西省幹部の来県は2年続けてとなり、今後の更なる交流の深化などについて意見交換を行いました。



課題解決のための調査・研究

こどもの居場所づくり！

9月3日、所属の**総務県民生活委員会**は、「関東国際高等学校渋谷キャンパス」で私学の振興について、「文京区青少年プラザ（b-1ab）」では、埼玉県の問題である、不登校や虐待の増加など、子どもを取り巻く課題が複雑化する中で、誰一人取り残されず夢や希望を持って健やかに成長できるよう、学校や家庭以外で安心して過ごせる居場所の整備、取り組みについて調査して参りました。



「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさす」

9月10日、**県議会狭山茶振興議員連盟**は、鶴ヶ島市の茶園「長峰園」を視察して参りました。関東地区では唯一の乗用の大型茶園クリーナーなど積極的な機械化に取り組まれている長峰園さん。更なるご活躍を期待しています。



先進的議会運営などについて！

10月21日、所属の**県議会議会運営委員会**は、立川市議会で議会運営・改革について、川崎市議会では、新本庁舎整備事業に伴う議会の対応について視察して参りました。立川も川崎も素晴らしい庁舎でした。職員さんの働く意欲も高いに違いないと感じました。



「左右両側に立ち止まろう！！」 エスカレーター事故を防ぐために！

9月26日、JR浦和駅で「エスカレーターの安全利用街頭キャンペーン」に参加しました。知事、正副議長、理学療法士会、文芸学院大学の学生9名、20名ほどの同僚県議など多くの皆さんと共に安全利用の呼びかけを行いました。



高校生からの嬉しい問い合わせ！！

8月中旬、県内の高校に通う高校3年生の生徒さんから「卒業研究」で個人が興味のある社会問題についてテーマを設定し、それについて研究する授業があり、「**埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例**」の提案者代表である私に発案の経緯・意図や条例の効果について話しを伺いたいと連絡をいただきました。



8月下旬、高校を訪問し、担当教諭の先生と生徒さんからインタビューを受けました。彼女がこのテーマを選んだのは、自身がエスカレーターで怖い思いをされたことがきっかけだそうです。課題とするのは、さいたま市などの都市部と自身が居住する地域との活動や周知の差をどう埋めることができるかとの事でした。



「卒業研究発表会」に参加しました。衆院選最終盤ではありましたが一時間半だけ時間をひねり出し学校へ。15分間の発表でしたが非常によくまとまった発表でした。周知するときに条例の「何故、どうして」をもっと理解してもらう工夫が必要であるとか、もっと知ってもらう工夫として川柳コンテストをやってみたらどうか？など「へー」と感じる興味深い発表でした。



つながりをたやさない社会づくり！

10月1日、午前8時よりJR浦和駅西口で、**県議会社会福祉推進議員連盟**所属議員として皆さまに「赤い羽根協同募金」への協力を呼びかけました。



安全・安心なまちづくり！

10月11日、JR浦和駅で**県議会防犯のまちづくり推進議員連盟**所属議員として「防犯のまちづくり街頭キャンペーン」に参加し、JR浦和駅を利用する皆さんに自転車盗難防止ワイヤーロックやチラシなどを配布し、犯罪被害防止を呼びかけました。



若者と政治の距離を縮めるために！

10月11日、埼玉県議会初の試みである、「**大学生等と県議会議員との意見交換会**」を開催しました。この試みは、私が会長を務める「**埼玉県議会だよりに係る広報検討会**」で紙面の刷新を検討する中で、全国各地の県議会広報を拝見し、若者たちへのアプローチに様々な工夫が行われていることを目にしたことに端を発しています。もともと、国会議員ほどメディアに載らず、市町村議会議員ほど身近に感じてもらいたい県議会議員。本県の投票率も先の統一地方選挙で34.92%と極めて低い状況でした。その原因の一つとして「**若者の政治離れ**」は言われて久しく、これから社会に出る大学生たちが「地方政治・県議会」をどのようにとらえているのかを私たちが知る機会として、そして参加してもらった3大学18名の学生たちには「素顔」の県議会議員を知ってもらう機会として、学生たちが参加しやすいよう17時からの開催とした意見交換は、学生たちの熱心な参画により、予定を30分も超過するほど白熱し盛り上がりました。私たち議員も「目からうろこ」の気付きも得られた貴重な時間となりました。内容は県議会ホームページにアップされていますのでぜひご覧ください。



2024/10/14産経新聞ネット記事より
衆院選埼玉、20代前半より後半の方が低投票率「社会人は政治がなくても生きていける？」インタビューが紹介されました。

パリパラリンピック 車いすラグビー 金メダル おめでとうございます！

10月15日、パリ2024パラリンピック競技大会において、車いすラグビー競技で金メダルを獲得した埼玉県ゆかりの、(写真左から)倉橋香衣選手、しまかわしんいち選手、はがまさゆき選手、島川慎一選手、羽賀理之選手が、知事及び議長を表敬訪問されました。

私も**県議会ラグビー振興議員連盟**会長、そして、**埼玉県ラグビーフットボール協会副会長**として金メダリストの皆さんとご一緒いたしました。

私が首から下げているのは、羽賀選手にお借りした金メダル。凄く重かったです。

